

あゆみ通信

VOL. 115

あゆみの会（真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会）
会長 浪花 博
広報 本持 喜康



仏願の生起・本末を聞き・疑心あることなし

近畿連区研修レポート 細川 克彦(佛足寺)

2018年5月31日～6月1日に「第45回近畿連区同朋の会推進員研修会」が「真宗同朋会運動の願いと推進員の使命」をテーマに、倉敷市・鷺羽ハイランドホテルで、関係教区から195名（うち大阪教区18名）が参加して開催された。あゆみの会からも加藤徳江さん、細川孝子さんと細川克彦が参加。

講師は伊藤元（はじめ）先生（九州、日豊教区）で「真宗の宗風」を講題に、真宗門徒にとって大事なこととして、①必ず勤行（お勤め）する②必ず聞法する③物忌みをしないの3つを挙げ、「念仏申せ」という諸仏の仰せがあり、信じてから聞くのではなく、聞き続ける。その中から信ぜざるを得ない教え（言葉）に遇うのでしょうか。年を取ると体力は低下するが、聞法を続けることによって、気付き続け、精神は元気に保ってください。それが若い人たちにも励みになるのですからと力強く話してくださった。終わり。

「近畿連区」は、大阪教区を始め、京都教区、長浜教区、山陽教区と四国教区の推進員組織で構成されており、毎年幹事教区が研修会を開催されている。2019年は大阪が開催予定。



ります。聞がついに信にならねば、真に聞こえたものではありません。

（蜂屋賢貴代「聞法の用意」法蔵館より引用）

蜂屋賢貴代（はちや よしきよ）師 1880～1964 大阪市 慶徳寺に生まれる。大正から昭和にかけて伝道布教に生涯をかけた真宗僧侶。第2組内、谷町の光照寺住職であった。

第2組聞法会案内 「共に学ぶ『正信偈』」

日時 2018年7月12日（木）
午後2時～4時

会場 唯専寺（浪速区敷津西）

講師 新田 修巳先生

（平野区

正業寺）

参加費 500円

その他 お念珠

赤本持参

第2組聞法会予告

日時 2018年8月25日（土）
午後2時～4時

会場 光照寺（天王寺区上汐）

講師 稲垣 直来先生

（東大阪市

徳因寺）

参加費 500円

第3期養成講座でお世話になっ

た住職です。お楽しみに。



校訂版
聞法の
用意

念仏者
蜂屋賢貴代

伊藤 元

求道と聞法

道を求めてやまぬ心をおこして、さてどうすればよいのかと言えば、聞くのであります。聞法するのであります。道を求め、道を得たいと願うならば、聞くことに依らねばならぬのであると、私どもは親鸞聖人から教えられているのであります。

何を聞くのであるかと言うと、聖人は「仏願の生起・本末をききて疑心あることなし。これを『聞』というなり」と申されています。即ち本願を聞くのであります。名号のいわれを聞くのであります。名号は本願からあらわれてきたものであるが、その本願の起こった所以と、本願の精神と、その本願成就のために苦心苦勞を積んでくだされ、今や南無阿弥陀仏と成って、私の上に来て下さって有ることを聞いて、一点の疑心なく、安心と歓喜を得るに至ったのを、真に聞いたというのであります。すなわち法を聞いて疑心の無くなったのを聞と言うのであ

第2組聞法会報告



2018年6月12日(火) 午後2時から、阿倍野区の西教寺(松本隆信住職)をお借りして、第2組聞法会が開催され、組内の住職、寺族、門徒と推進員31名が参加した。

講師は松山正澄先生(19組正受寺前住職)で、第2組第3期推進員養成講座の講師をしていただいた。先生は、親鸞聖人が師法然上人から聞かれた「生死出ずべき道」について、善導大師や平野修先生、曾我量深師の言葉を紹介されながら「南無阿弥陀仏の生活は、積極的にあらゆるものをいただいている、新しい歩みである」と話された。

聞法会に参加して 浪花 博(法山寺)



阿弥陀のはたらきには、大慈悲心と不可思議光という智慧の光があり、大慈悲心は如来の願いを気付いて欲しいと呼び続け、常に追いかけてくださる大慈、大悲の心です。

この大慈悲心はどうして自分に届くのか。親鸞聖人が29歳で下山され、法然上人にお会いになり、「生死出ずべき道」(恵信尼)を歩まれた。

「生」は善いもの、「死」

は嫌なものです、この2つを切り離しては生きて行けません。そこに自ら「自分はこれでよいのか」という、自浄の心が生まれ、これが本願の出所なのです。



不可思議光とは、今までの生活では見えない智慧の光で横で支え、後ろから育ててくださった大事なことが見え、申し訳ないという慚愧心が起こる。これを不可思議光に出会ったと言います。



善導大師は、「前念命終」(今まで思っていたことは間違っていた[信に死し])、「後念即生」(新しい気付きで、新しく生きる[願に生きよ])と申されています。

南無阿弥陀仏に出会い、出会ってほしいと思います。終わり。

(善導大師の言葉の後の[]内の言葉は、曾我量深師が約された言葉＝事務局)

事務局＝今回は、聞法会に参加した感想を、法山寺の浪花博さんに寄稿していただいた。感謝申し上げます。

中嶋ひろみ門徒会長 参議会副議長に

6月1日、第2組門徒会の中嶋ひろみ会長が、東本願寺参議会の副議長に就任。



これまで大阪教区から参議会議員として活動された結果のことです。

如是我聞

我が心中の法蔵菩薩

病気の娘の看病に無理をした嫁が、娘の通夜の日に圧迫骨折になった。気丈にも点滴をして通夜と葬儀を済ませたあと、ベッドとコルセット生活が3か月続いた。

遅ればせながら、日頃の罪滅ぼしに家事を手伝い、今まで当たり前であった日常が、大変なことに気が付いた。

段取りとやり方でもたもたしていると、ベッドから嫁の叱咤激励が飛ぶ。

仏法に触れて、わが心に法蔵菩薩が居られることを、新田先生に教えられた小生。

「そだねー」と、受け流せる。ところが、僕の法蔵さんが、散歩に出かける時がある。そんな時に、叱咤激励が来ると、思わず「気に入らんのなら、自分でしたら？」と、まさに口から出そうになった時に、法蔵さんが飛んで帰ってきて「自分でやりたくても出来ないのだから」と気付かせ、教えてくださる。聞法しているつもりが、仏法が本当に聞けていないのだと痛感する。嫁はどんどん元気になってきている。有り難い。(本)